

山口県地域景観ワークショップ通信第 8 版



柳井市 柳井津地区編

- 平成 19 年 3 月に柳井市で開催しました地域景観ワークショップにご参加いただきまして、大変ありがとうございました。
- 景観の専門家による景観にまつわるセミナー、景観を探して歩いたタウンウォッチング、そして、壁新聞づくり。
- 限られた時間の中で、自分の五感をフル活用して景観を発見する方法を習得いただけただけでしょうか？また、柳井のまちや自然の景観の特徴を少しでも感じることができたでしょうか？
- 参加した当日を思い出して、みなさまの身のまわりを少し眺めたり、歩いてみてはいかがでしょう。見慣れた風景のなかからたくさんの魅力を発見できるかもしれませんよ。

	柳井市柳井津地区
開催日	3月2日(金)3日(土)
場所	柳井市商工会館
参加数	セミナーの部/2日(金) 50名 ワークショップの部/3日(土) 45名(5グループ) 地元在住の方、地元建築士、市外在住の方など様々な立場の方が参加されました。

地元プチ情報



柳井市都市計画課職員の岸田稔明氏からまち歩きエリアである「柳井津の特徴」についてお話を伺いました。
柳井津のまちは、扇状地の末端部に位置しており、地盤がよく地下水の質が良かったため、古くから発達しました。醤油やお酒の醸造が盛んだったのも水が大きく関係しています。市町村制が施行された時、柳井津町は県内でも有数の規模を誇る町のひとつでした。

明治 30 年に柳井駅が開通してまちが広がった。当時の柳井津の人口は 6,000 人（今は 1,000 人）でかなりの過密都市。昔の街道筋を歩いてみたり、柳井村と柳井津町の境だったところを見てほしい。境には川や水路など今でもはっきりと残っていて面白いです。
柳井川の表情は時間によって変わります。昔は海だったため、潮の干満がはげしいところ。まちの微妙な高さの違いも感じ取ってほしい。細い路地も面白いです。

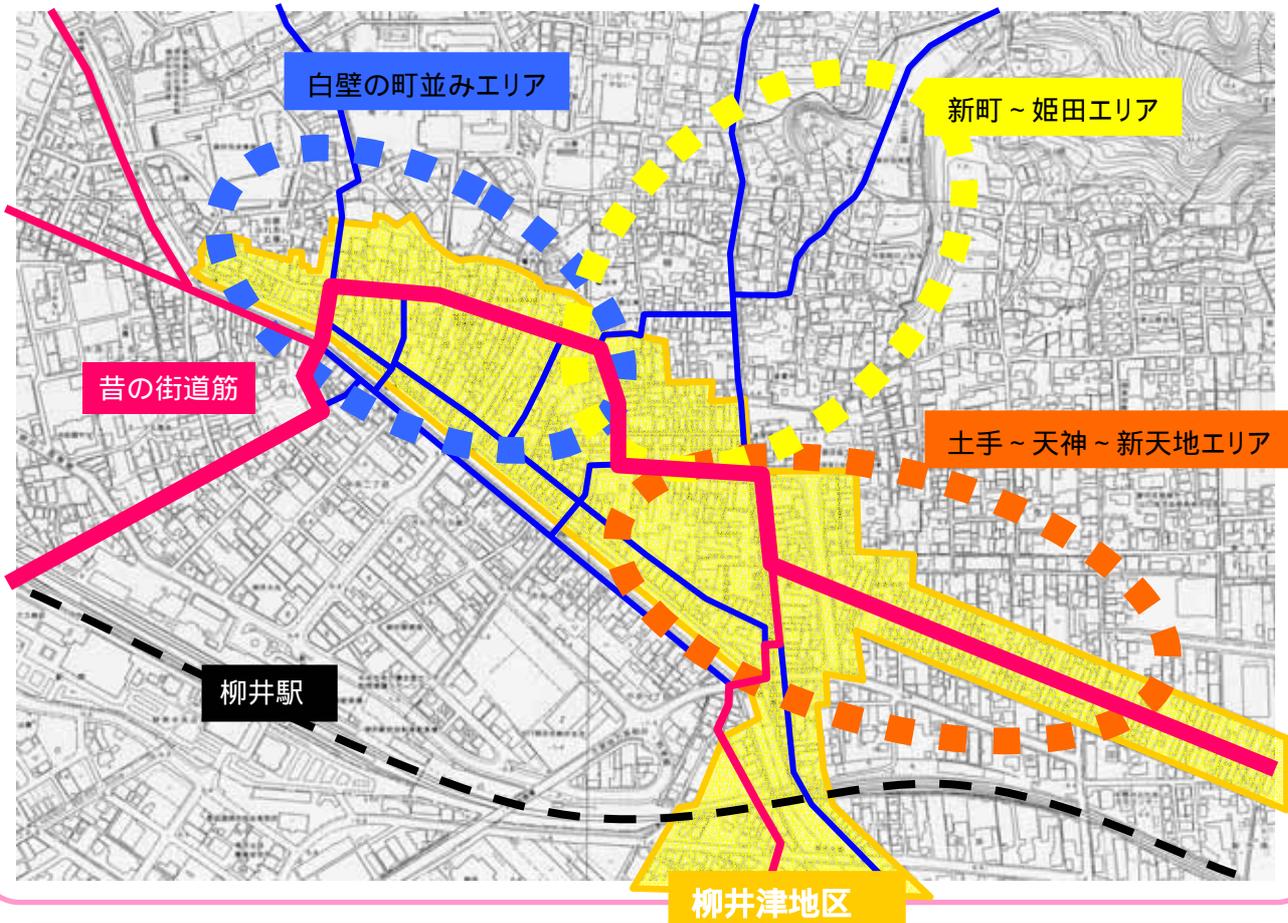
景観豆知識

山口県産業技術センターの水沼信さんから「景観のとらえ方」についてお話しを伺いました。
景観というのは、3つの関係で考えると、大変分かりやすいです。「私」音、におい、味など五感全部をつかって景観をとらえて下さい。同じ私でも場面や状況によって変わりますし、同じ対象を見ても、地元の人と市外の人とではとらえ方が異なります。「対象」いろいろな季節や天気を想像してみてください。同じ建物でも、人々が生活している暮らしの要素が付け加わることによって魅力的なものとなります。「距離」遠くで見るか近くで見るか、あるいはその中から見るかで随分と違って見えます。



柳井津地区では、5グループに分かれて、3つのエリア（白壁の町並みエリア・新町～姫田エリア・土手～天神～新天地エリア）を見て歩きました。

心地よい風、鐘の音、鳥のさえずり、季節の香りなど、風景をより魅力的に演出する要素がさまざまありました。内容的には、柳井のまちについて、今で気づけなかった、あるいは違った見方、考え方ができたのではないのでしょうか。



土手～天神～新天地エリア

4班 「新市20不思議発見」

- 昔ながらの新市界隈で不思議なものをたくさん発見した
- 中開作の溝、昔の映画館、温泉ののれん、古いお屋敷などなど
- イチオシは、家の軒に合わせて曲がった電柱
- 天神様の近くにはトリコロールカラーのお店。お肉屋さんや写真館など



白壁の町並みエリア

5班「白かべとひなまつり」



- イチオシは、おひな飾りなど祭りの準備をしている風景
- 柳井川に建物が架けだしている風景は、フラミンゴみたい
- 軒先の杉玉は、新酒ができたしるし。スギ花粉はあるの？
- 高台から白壁の家並みを見た屋根がきれい



3班「よそ観(み) よりみち よい小路」

(こみち)



- イチオシは、長くて細い路地
- 柳井川の潮の干満がはっきりと分かった。川に「花いかだ」を浮かべる準備をしていた
- 白壁名物のガイドさんに出逢った
- 昔の銀行のレンガ塀が残っていた。洋風の建物も見つけた



柳井津の
どんな景観が
気に入りましたか？

- 坂道、展望、まちエリアといろいろあったよ
- イチオシは、岡ノ上公園。茶臼山古墳や海が見渡せる
- 酒屋のおばさんによると、このあたりは酒をつくるのに適していたらしい。扇状地であったため、井戸水をくんでお酒をつかった



- イチオシは、坂道の路地と石垣と緑のコントラスト
- 火伏地蔵が多かった。昔の人は火事を恐れていたらしい
- 高台から町を眺めているとき、お寺の鐘がなった。ウグイスの声も聞こえた
- 山頭火が入浴したといわれる姫田湯の黒い煙突が印象的だった



1班
「独り歩きの坂」



2班
「坂の途中で・・・」

新町～姫田エリア

タウンウォッチングで発見したまちの宝物（良好な景観）



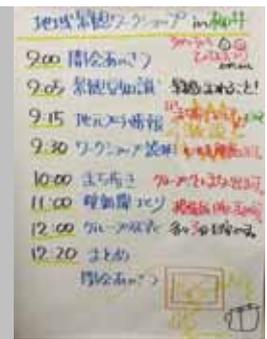
坂道と石垣と緑



細くて長い路地



たくさんの火伏地蔵



【プログラム】



壁新聞づくりの様子



【眺望】高台から見渡す



【記録】人のお話を聞く



【額縁】景観を切り取る

いろいろな方々から景観にまつわるお話を聞くことができました！

3月2日 景観セミナーの部

景観セミナーでは「産・官・学」それぞれの立場でご活躍のお客様をお迎えしました。



萩市まちなみ対策課長の弘健助さんから、「萩市における景観づくりの事例」として、伝建地区である浜崎地区における住民活動の取り組みなどについて、行政側の苦労話を交えてお話を伺うことができました。



山口県景観アドバイザーの三吉勝也さんから、「柳井地区の成り立ちと景観」と題して、これまで柳井がどのような経緯でまちや景観が形成されてきたのか、柳井の歴史と今の景観がどう結びついているかを、地元の建築家の立場から教えていただきました。

徳山工業高専助教授の熊野稔さんから、柳井市における景観まちづくりの方向性について提案がありました。特に、景観としてみる時は「視点場」が大事であることを学びました。

3月3日 ワークショップの部

ワークショップを終えて（講評）

山口県景観アドバイザー 三吉幸夫さん/ファシリテーター(水先案内人)担当

ワークショップがどんなものが体験できましたでしょうか。歩いてみて感じてみて、何かつかめたのではないですか。今日は新しい景観資源がいろいろと発見できましたね。

柳井市都市計画課職員 宮本裕氏/ファシリテーショングラフィック担当

自分のお気に入りの場所（景観）を他の人にも伝えることが大切だと感じました。

普段の暮らしのなかでもちょっとだけ景観を意識してみてください。

